

## 平成13年度海外研修報告

### 北米の野外教育事情とスプリングフィールド大学との姉妹校提携準備

柳 敏 晴  
(生涯スポーツ学講座)

#### はじめに

21世紀を迎えるこれからの社会の教育では、基本的な方向も含め改革の必要性があると考えられる。中央教育審議会では、今後の教育で重視されるべきものとして、「生きる力」の育成、「ゆとり」の確保、個性尊重の教育、学校・家庭・地域社会の連携、学校間の接続の改善などを示している。平成7年度には、都市化、核家族化等の社会環境の変化の中で、青少年の健全な育成を図るためには、野外における体験活動等野外教育の果たす役割が重要であるため、調査研究が行われた（文部省生涯学習局青少年教育課）。そこでは、野外教育指導者の養成・確保の項目で、教員や教員養成課程の大学生に対する指導者養成事業の充実がいわれている。鹿屋体育大学では、開学以来実践的な指導者の養成を基本に、社会体育実習が行われてきた。野外教育を専攻したものは、平成13年度迄で815名を数える。余暇時間の増大と共に、益々野外を中心とする生涯スポーツ・レクリエーションの指導者が求められてくると考えられる中で、鹿屋体育大学では次のような研究が進められてきている。

「生涯スポーツの理論とプログラム」(1989), 「生涯スポーツのプログラムと情報サービス」(1990), 「生涯スポーツ指導者養成カリキュラム構築のためのマーケット調査研究」(1993), 「大学教育方法等改善プロジェクト」(1994)

著者自身は、「ウエルネスキャンプからの一考察」九州体育学会第41回大会(1992), “An Empirical Study of Developing Wellness Lifestyles through Outdoor Leadership Training” ICHPER 36th World Congress Japan (1993), “An Approach to Environmental Education by Green Work Camp” XVth World Conference of the International Union for

Health Promotion and Education (1995), 「キャンプにおける水辺活動の価値」日本レジャー・レクリエーション学会第27回大会(1997), 「新聞報道から見た岩菅山スキーコースの開発中止要因」鹿屋体育大学学術研究紀要 Vol.17 (1997), 「海洋体験が心理的効果に及ぼす影響に関する研究」, 「組織キャンプ体験が児童のメンタルヘルスに与える影響—効果の持続性を中心として—」福岡市ユニバーシアード福岡大会記念振興基金補助金研究報告書(2000)等で、野外教育プログラムの効果測定と指導者養成について研究を積んできている。

以上の状況から、鹿屋体育大学、また日本の体育系大学において、野外教育の指導者養成のシステムやマネジメントづくりは緊急の課題といえる。北米に於いて体育指導者養成の歴史が長いスプリングフィールド大学と、野外教育中でも環境教育指導者養成のメッカと言われるモンクレア州立大学附属ニュージャージー・スクール・オブ・コンサベーション(New Jersey School of Conservation)において、指導者養成の研究を行うことは、緊急に求められていると考えられる。また、民間団体としてキャンプ100年の歴史を持つフロストバレーYMCAを訪問し、歴史を通してどのようなリーダーシップトレーニングが実施されてきたのか、その伝統を引き継いで現在どのようなリーダーシップトレーニングが実施されていることを明らかにすることは、意義があると考えられる。

更に、鹿屋体育大学が「個性が輝く大学」に発展するためには、北米の大学とも姉妹提携を進める必要があると考えられる。幸い、一昨年の夏スプリングフィールド大学から鹿屋体育大学を訪問され、国際交流についての打診があり、鹿屋体育大学に対する関心の高さが感じられた。今回の海外研修では、スプリングフィールド大学、モンクレア州立大学、フロストバレーYMCAを訪問し、野外教育の指導者養成のシステムやマネジメントづくりについて共同研究の可能性と、学生や教官の交流の可能性について協議し、姉妹校提携についての可能性を探ることを目的とした。

## 訪問先と共同研究者等

### 1. スプリングフィールド大学

- Richard B. Flynn, Ed. D.: President (学長)  
William J. Considine: Dean, School of Physical Education and Recreation Buxton Professor of Physical Education  
Kenneth A. Wall, D.P.E.: Associate Professor of International Studies Director, International Center  
Matthew J. Pantera III, Ed.D., CPRP: Department Chair & Associate Professor Recreation & Tourism  
Vincent J. Paolone, Ed.D., FACSM: Associate Professor, Movement Sciences  
Professor (Dr.) James A. Ajala: Fulbright Faculty School of Health, Physical Education & Recreation

### 2. モンクレア州立大学

- Nicholas J. Smith-Sebasto, Ph. D.: Interim director, School of Conservation  
Randall Fitz Gerald, Ph. D.: School Coordinator, School of Conservation

### 3. フロストバレー YMCA

- John K. Haskin: Associate Executive Director of Programs  
Akihiko Kobayashi: Director, Tokyo-Frost Valley YMCA Partnership

## 結果

スプリングフィールド大学では、野外教育のフィールドキャンパスに於いて実施されている野外教育カリキュラムと指導者養成システムについて資料収集すると共に、日本のシステムとの比較研究を行う打ち合わせを行った。Matthew J. Pantera III氏と研究の打ち合わせを行い、「25 Keys to World Class Maintenance」の共同研究を行うこととした。

スプリングフィールド大学本部において、学長 Dr. Richard B. Flynn 氏と会見し、姉妹校提携について可能性を打診した。2月7日付で回答の公式文を受領し、姉妹校提携が進んでいる。体育学部長 Dr. William Considine 氏と会談し、学生の交流

と単位互換の可能性について話し合いを持った。姉妹校提携を進める中で詰めることができると考えている。国際交流センターディレクター Kenneth A. Wall 氏と会談し、学生の交流の可能性について打ち合わせを行い、交流の可能性は大いにある。

モンクレア州立大学 School of Conservation では、Nicholas J. Smith-Sebasto 氏と会談を行い、北米の野外教育指導者養成の実情調査の共同研究の可能性について話し合った。今後さらに意見交換を行い、実現できるよう努力を続ける確認をした。また、学生の実習の可能性、交流の可能性について話し合った。今後の話し合いにより、姉妹校提携の可能性は大いにあることが確認できた。

フロストバレーYMCAでは、Tokyo-Frost Valley YMCA Partnership のディレクター小林昭彦氏と会い学生の研修について話し合った。以前のように、鹿屋からの学生の研修を受け入れていきたいということで、できれば平成14年度から実施できないかを検討している。John K. Haskin 氏との話し合いで、野外教育の指導者養成のシステムやマネジメントづくりについて共同研究の可能性について、今後の交流を進めながら煮詰めていくこととした。

今回の北米研修で、野外教育施設とプログラムを中心に視察と打ち合わせを行ってきた。北米で野外教育は重要な分野で、教育に携わる者が必ず体験するシステムになっている。冒険教育、環境教育とキャンパススキル等が中心である。日本でもこれらの分野は取り入れられてきているが、将来の日本を担う青少年を育てる若い学生達が、北米の広大な自然の中で、野外教育やキャンププログラム、そして幅広い分野の人達と出会う機会にしていければよいと考える。

スプリングフィールド大学は、伝統があり、北米でも唯一 Doctor of Physical Education の学位を出している体育を中心とした大学である。姉妹校提携を早急に結び、学部や研究科の学生達が交流できるようになると、今まで以上に、視野を広げネットワークをつくることができると考える。スプリングフィールド大学の近くには、写真で紹介している、[Basketball Hall of Fame] や「Internation

al Tennis Hall of Fame」があり、スポーツの歴史や発展を研究したい学生達が興味を持つ施設が多い。鹿屋体育大学が、個性を輝かすためにも、できるだけ早く姉妹校提携を結び、積極的な交流を進め

ていければよいと考える。

最後に、このような機会を与えていただいた、学長を始めとする関係の皆様から心から感謝し、報告といたします。



写真1 Springfield 大学学長 Dr. Richard B. Flynn 氏に、芝山学長からの親書を手渡す。



写真4 バスケットボール誕生の地で、W.コンシダイン体育学部長とK.ウォール国際部長



写真2 Springfield 大学球技用 Benedum Field



写真5 Springfield 大学体操練習場



写真3 Springfield 大学陸上競技用 Blake Field



写真6 Springfield 大学室内プール



写真7 Springfield 大学一般学生のためのウエルネスセンター



写真10 ニューポートにある International Tennis Hall of Fame



写真8 Springfield 大学情報処理室



写真11 室内テニス場。壁打ちも可というルールで、ウォールテニスという。



写真9 野外教育の実習キャンパスと日本からの留学生大学院修士課程の小野田さん



写真12 International Tennis Hall of Fame のセンターコート



写真13 スプリングフィールド市にある Basketball Hall of Fame の内部, バスケットボールシューズの変遷



写真14 Basketball Hall of Fame の内部, 車椅子バスケットボールのコーナーもある。



写真15 新築中の Basketball Hall of Fame (バスケットボールの殿堂)